

東光原

熊本大学附属図書館報

Kumamoto University Library Bulletin, Vol.25, No.2, Apr. 2000

永青文庫蔵雑記類より (七)

● 寛延奇談

ハーン生誕150年記念企画 (2)

● ハーンと熊本作品

● 平成12年度事業計画

● 「大学改革と情報基盤」をテーマに学術講演会を開催



永青文庫熊本大学附属図書館寄託
『歌仙』

永青文庫蔵雑記類より (七)

寛延奇談

西 田 耕 三

『寛延奇談』(7巻2冊)は写本で伝わる。記事は寛保2年(1742)の件が最も古く(後述)、寛保3年(1743)の新嘗祭の触れや江戸町人数の調べなどがこれにつき、延享4年(1747)の板倉修理の乱心、刃傷、切腹にかかわる事柄が最も新しい。寛延は延享の後の年号である。『寛延奇談』は有名な日本左衛門の悪事を載せる(巻6)ことでも知られる。

ここでは二つの奇談を紹介しよう。まず、巻1に収められている「奥州会津細田村之百姓義経之御判物所持之事」である。

奥州会津細田村百姓惣平、寛保二年戊暮、御年貢不相濟、公義より闕所被仰付候処、右惣平住居候家之棟木に、先祖より代々箱に入、其上を幾重ともなく包、終に披見候事も無之由にて結付有之候。今度切落し、相改候処、左之通書付有之候。

此度北敵へ相渡候為、粮米粟七斗致借用者也。帰参無之候はゞ、時の將軍可預裁断也。

文治四年四月十八日 伊予守義経判

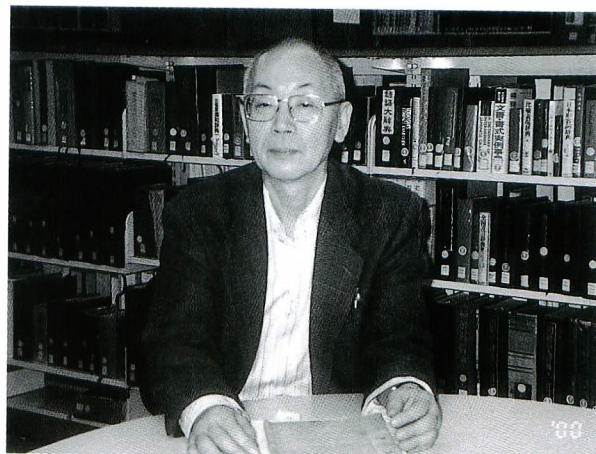
会津細田村

惣平どの

筆者亀井六郎と有之。依之、公義へ相達し、御吟味之上にて惣平へ知行三百石被下置る。

文治4年(1188)は、義経の死の前年。亀井六郎は、兄鈴木三郎とともに義経に最後まで随った家来である。惣平が義経の書付を所持していたために三百石をもらったというのだから、この記事自体は大まじめなものだろうが、たとえば、『西鶴諸国ばなし』の叙述を思いあわせると、いかにもわざとらしい近世的な奇談にみえてくる。すなわち、『西鶴諸国ばなし』序文に

世間の広き事、国々を見めぐりて、はなしの種をもとめぬ。……加賀のしら山に、ゑんまわうの巾着もあり。信濃の寢覚の床に浦島が火うち



はこ
篋あり。かまくらに、頼朝のこづかひ帳有。…
…

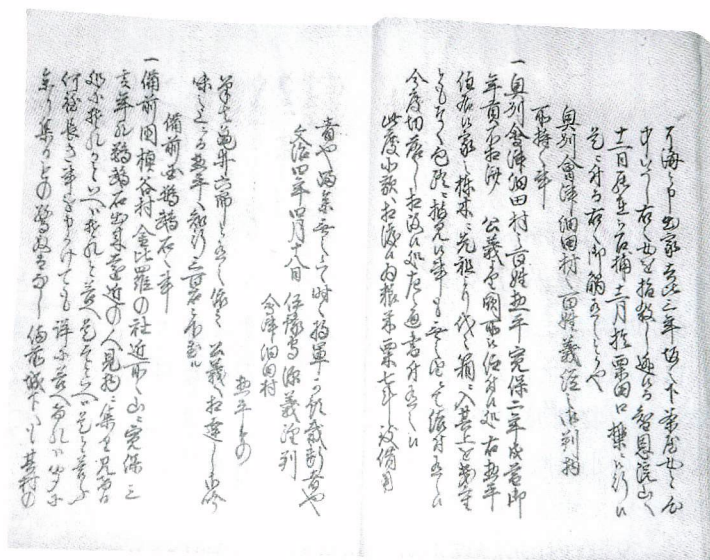
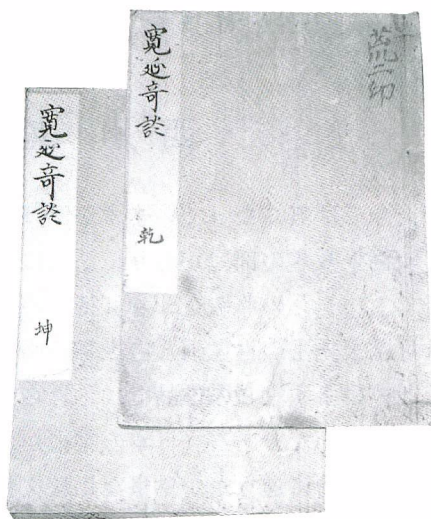
とあり、同じく巻1-6「雲中の腕をし」には、

……よしつねこそ、丸貌にして、鼻ひくう、向齒ぬけて、やぶにらみにて、ちゞみかしらにて、横ふとつて、男ぶりは、ひとつもとりへなし。……亀井は、何をさしても、小刀細工がきいた。鈴木、つぎのぶは、棒組にて、一生飛子買ふて暮す。……

とある。こういう感覚が、随分古い時代のこととなった源平の武将たちのことを、奇談として扱うことになるのである。なお、この借用書の話は小異をもなって、他の資料にもみえるが、省略する。

もう一つは、一休の筆跡に関する記事で、巻2の「仙台中鎗持不計一休の正筆調候附紫野大徳寺添簡之事」である。

延享二丑年春の比、仙台中松原新左衛門と申者之鎗持、不計古き書物見当り候故、直段何程と問候得ば、二十銭計と可申旨申聞候に付、十五文に付け候得ば右之通払可申よしにて、買取申候。主人新左衛門へ見せ申候処、一休和尚正



筆にも有之哉と申、仙台の大寺へ差出候処、究もいたしがたく、京都紫野大徳寺へ遣し、吟味之処、一休和尚真筆紛無之由、代金九百兩折紙添簡共に極り候。依之、右新左衛門へ陸奥守より、刀一腰馬壺正時服十重給り、新左衛門鑓持へ金百兩差遣し候よし。

右之書物にいわく

- 一、坊主になるな魚を喰
 - 一、地ごくへ行て鬼に負るな
 - 一、大食をして暮せよ
 - 一、念仏申さずとも遊興をするな
 - 一、仏法はうそならし
- 皆人はよくを捨よとす、めつ、
あとでひろふは寺の上人

紫野 こんきやう齋

如是書物なりしと、其比風聞有しを聞て、爰に記すもの也。

「書物」はカキモノと読むのであろう。一休の正筆が当時どれくらいの相場であったのか、私には皆目見当がつかない。しかし、九百両というのは、いくら大徳寺のつけた値だとしても、法外な気がする。ここにも、さきほどと同じ奇談を喜ぶ感覚が働いているように見える。十五文で買った書物を九百両にするという野放図な感覚が話を創り、噂を伝えて、それらを書とめていく。

一休は、この書物に記されている程度のことは平気で言った人である。しかし、それだけではない。近世期における一休ものの盛行がそれに輪をかけ

た。正確に言えば、奇談を喜び、滑稽を楽しみ、畸人を歓迎した近世期の感覚が、一休ものの盛行を支えたのである。また、浮世草子『御前義経記』では、義経はたいへんな好色漢に変貌している。ただ、残念ながら、そのような近世期の嗜好が何に拠るものなのか、私にはまだ明確な見通しが得られない。

(にしだ こうぞう 元文学部教授)

*7回続いた「永青文庫蔵雑記類より」の連載も、今回をもって終了です。長らくご寄稿いただきました西田先生、ありがとうございました。

ハーン生誕150年記念企画（2）

ハーンと熊本作品

西川 盛雄

西暦2000年の今年はラフカディオ・ハーン（小泉八雲）生誕から150年目にあたります。熊本でも6月以降さまざまな催しが開かれます。熊大でも11月3日（金）から19日（日）まで五高資料館でハーン特別展が予定されており、3日には小泉家直系の小泉時さんが熊大に来られ、講演して下さる予定です。

ハーンは1850年（嘉永3年）6月27日、ギリシャのイオニア諸島のひとつ、サンタ・マウラ島（現・レフカダ島）に生まれ、1904年（明治37年）9月26日（月）東京で亡くなっています。短い54年の生涯でしたが残した仕事は膨大です。ハーンが1890年（明治23年）4月4日に来日し、一年の松江滞在の後、列車で1891年（明治24年）11月19日（木）午後5時36分に春日駅（現・熊本駅）に到着したとき駅頭に出迎えたのは嘉納治五郎校長でした。翌日には第五高等中学校に出かけ、校舎を一時間程見てまわっています。この時から1894年（明治27年）10月6日（金）に熊本を去り、神戸に行くまでの3年間弱、ハーンは確かに英語教師としてここ熊本にいたのです。

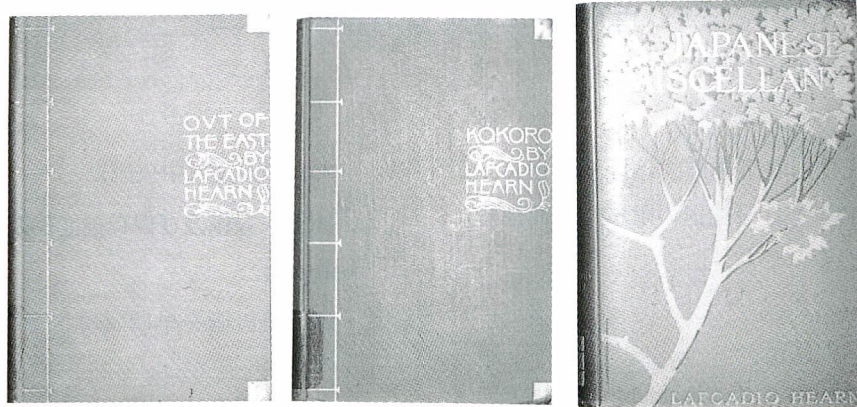
このハーンが熊本を舞台として書いた作品には案外身近なものがあります。構内にある赤レンガの五高関係の建物はもちろんのこと、作品『柔術』

の中には、今では無くなっていますが、「瑞邦館」という広い百畳敷きの部屋があり、ここには会津藩から来て、ハーンの尊敬を一身に得ていた漢文教師の秋月胤永先生の肖像画と白虎隊の図が掲げてあったといえます。この作品では、恐らくは嘉納治五郎から聞いたであろう日本の柔術が西洋武道といかに根本的に違うかが見事な比較文化的な手法で描かれています。『九州の学生とともに』は五高生の書いた英作文の文章を中心にして、当時の学生の子神気質が作品として絶妙に描き出されています。

熊大裏の小峰墓地にはハーンゆかりの鼻の欠けた石の仏像があり、授業の合間にハーンがよく散策した所です。ここからの景色を作品『石仏』の中でハーンは「ひろびろとした万緑の肥後平野が一望のうちに眺められ」「阿蘇火山が永遠の噴煙を吐いている」（恒文社:平井呈一訳）と記しています。『願望成就』は松江の学校で教えたことのある小須賀浅吉が熊本の連隊に転属し、出征直前に暇乞いのためにハーン先生に会いに来、先生と死と靈魂の話しをし、やがて戦地に赴き、戦死する話しです。ここには日本と西欧の死生観の比較がテーマとして底流にあり、西行の和歌や西南戦争のときの熊本籠城の歌が出てきて奥行き深い



小品「石仏」に登場する通称鼻欠け地蔵



左：「柔術」「九州の学生とともに」等を収載したOut of the East (1895)
 中：「停車場で」を含む Kokoro (1896)
 右：「橋の上」を収載するJapanese Miscellany (1901)

作品となっています。この舞台はハーンの家ですが、鶴屋百貨店の裏にある小泉八雲旧居跡をぜひ訪ねられたらいかがでしょう。

実際にあった殺人事件の新聞記事を参考にしてハーンが再構成した作品『停車場で』の舞台は池田駅（現・上熊本駅）です。熊本で殺人を犯した凶悪犯が福岡で捕まり、警部によって熊本に護送されてきたとき、この犯人は自ら殺した警官の未亡人と子供を前にして罪の意識に駆られ、特にその子供に向かってはあられもなく詫びます。その砕かれた姿を見て護送してきた警部や見物人が涙を流す場面がクライマックスですが、この情景の中にある日本人の心情の機微をハーンは一瞬の絶妙なタッチで描写しています。名作『夏日の夢』はハーンが明治26年7月に長崎に旅をし、熊本に帰るときの物語です。三角港の宿屋「浦島屋」から宇土半島を人力車で旅する時に見た風景描写の美しさが印象的です。浦島屋で出会ったうつくしい女将の印象につなげてハーンはここで西洋人の目からみた「浦島太郎」の物語に再解釈を与えています。中に長浜（神社）でみた小さな泉の湧いている所を舞台にした「若返りの泉（清水）」の話しや宇土の雨乞い太鼓の「ドーン、ドーン」という音が全体作品を引き締まったものになっています。

もう一つ、ハーンには熊本を舞台に明治10年に勃発した西南戦争を背景にしてできた佳品『橋の上』があります。恐らく長六橋での出来事と思われませんが、薩摩の兵士三人が町中から馬で駈けてくる官軍の兵士を雨中闘いにする壮絶な現場に遭遇し、命をからくも助けて貰った車屋平七が、二十三年後、この橋を人力車で通る時に、回想して客であるハーンにしみじみと当時のことを語って聞かせるという物語です。

他にもまだありますが、少しばかり熊本を舞台にしたハーン作品について触れてきました。いずれも印象深く作品としても優れたものです。日本文化の解釈者であり、英語による欧米への紹介者であったハーンの仕事が今日新しく、ますます見直されてきています。この文豪の生活と創作の舞台のひとつがここ熊本であったことを誇りをもって今一度思い起こしてみたいでしょうか。

（にしかわ もりお 教育学部教授）

* 八雲文庫、ラフカディオ・ハーン・コレクションは、中央館の貴重書庫に別置しています。ご覧になりたい方は、カウンターにてご相談ください。

平成12年度事業計画

附属図書館の平成12年度事業計画は以下のとおりです。これは平成12年3月9日開催の附属図書館運営委員会で承認されたものです。

1. 利用者サービスの拡充

- ・ 新生へへの図書館ガイダンス及び2年生以上の学生に対するガイダンスの充実を図る。
- ・ 総合科目に開講の授業「情報メディアとネットワークの活用」を支援する。
- ・ 授業やゼミと連携した情報リテラシー教育支援を強化する。
- ・ 開館時間の見直しを行う。
- ・ シラバス掲載参考図書の整備充実の継続
- ・ 館内広報のため電子掲示ボードシステムの導入を図る。

2. 電子図書館的機能の充実

- ・ 目録情報の遡及入力計画を促進し、早期の計画完了をめざす。
- ・ 電子的資料（電子ジャーナル等）の導入を促進する。
- ・ 学内研究成果（学位論文、紀要）のデータベース化・公開のための条件整備を行う。
- ・ 本学所蔵コレクションの電子化と公開を進める。
- ・ 利用者用パソコンの整備充実を図る。
- ・ Webを利用した各種サービスを充実し、利用の増加を図る。
- ・ 総合情報処理センター、経理部情報処理課等、学内情報関連組織・施設等との連携強化を推進する。

3. 資料の整備充実

- ・ 学生用図書及び参考図書の系統的な蔵書構築に努める。
- ・ 視聴覚資料の充実を図る。
- ・ 共同利用可能な資料（電子ジャーナルなどの電子化されたものを含む）の整備を図る。
- ・ 教育研究成果の展示コーナー「ASPECT熊

大」の充実（中央館）

4. 施設・設備及び保存機能等の整備充実

（中央館）

- ・ 増改築計画を早期実現させるために関係部署との協議を進める。
- ・ 研究室等からの返却図書を受入れ、共同利用を促進するため、引き続き地下書庫の集密書架の増設を行う。
- ・ 図書館ガイダンスの進展に対応したラップトップ型パソコンの更新。
- ・ AVコーナーのDVD化に対応したソフトの充実と機器の更新。

（医学部分館）

- ・ 図書館建築構想を具体化する。
- ・ 書架増設を行う。
- ・ コイン式コピー機の機種更新及びカラーコピー機の導入を図る。

（薬学部分館）

- ・ 利用者用パソコンの更新。
- ・ カラーコピー機導入へ向けた関係部署との協議（次期、コピー機更新時を目的）。
- ・ 24時間開館システムと連動した監視カメラの設置。

（3館共通）

- ・ トイレ、照明、閲覧机、椅子、キャレルの整備、カーペット張り替え等の閲覧環境の改善を行う。
- ・ 利用者にわかりやすい館内サインを検討する。

5. 地域に根ざした活動の展開

- ・ 一般市民等への利用サービスの充実を図る。
- ・ 地域の関連機関との連携強化を図る。
- ・ 特殊資料展を開催する。（中央館）

6. 組織及び管理運営の改善、業務の効率化

- ・ 外部評価（モニター）を実施し、業務見直しの徹底を図る。

- ・予算基盤の整備を図り、電子的資料購入費の共通経費化をめざす。
- ・情報管理課への図書館専門員配置の実現に向けて取り組む。
- ・ILL業務（他大学、分館との相互利用）の増加に対応した資料のデリバリー方法を改善する。
- ・医療技術短大図書室でILL業務を行う。
- ・全学的な予算管理システムや物品請求管理システムなどと連携したシステムを開発し業務の標準化と効率化を図るとともに、利用者（研究室）サービスの拡充をめざす。
- ・業務の均一化を図るため業務マニュアルを整備する。

7. 研究開発機能

- ・学術資料調査研究推進室の調査研究活動を継続推進する。

8. その他

- ・阿蘇家文書の修復計画を継続する。
- ・米田家文書(8年度大型コレクションとして購入)の冊子体目録作成。
- ・図書館協議会等（全国、九州地区、熊本県内）の諸活動に積極的に取り組み、大学図書館における共通課題の解決を図る。

平成11年度購入研究用資料

図書館の研究用資料の充実を図るために、例年、学内共通経費により共同利用性の高い学術資料の整備を進めていますが、平成11年度は以下のコレクションを購入しました。

1. Progress in Neurobiology Vol. 32 (1989) -56

(1998) Oxford: Pergamon Press

医学部分館に配架

脳神経に関する殆どの分野にまたがる総説誌で重要な論文が多数掲載されているにもかかわらず本学に所蔵されていない。カバー範囲の広さから多くの関係者での利用が見込まれ医学部分館に備え付けることで共同利用性を高めることができる。

2. British Documents on Foreign Affairs. Series E:

Asia Part2:1914-1939 (50vols.) & Part3:1940-1945 (8vols.)

中央館2階 研究図書室に配架

日本外交史、東アジア国際関係史、東洋史、西洋史、国際法といった法学・文学にとって横断的利用価値があるものであり、附属図書館所蔵のBritish Parliamentary Papersを補完する第一級の資料集でもある。

3. 台湾日日新報 第1期：明治編（マイクロフィルム

70リール）、第2期：大正編（マイクロフィルム84リール）

中央館2階 研究図書室に配架

明治31（1989）年創刊から昭和20（1945）年の廃刊まで約半世紀のあいだ日刊紙として刊行。創刊の2年後からは台湾総督府の出資による政府当局の機関紙となる。法令規則、時事、社会問題、さらには生活形態、台湾の歴史まで克明に記録した第一級の台湾歴史資料であり、不可欠の日本近代史料である。

本学教官寄贈図書（平成12年1月～3月）

★ASPECT熊大コーナーに配架しています★

- ◆大野龍浩助教授（文学部）
伝統・逸脱・創造：人文科学への招待 / 愛媛大学人文学会編。-- 大阪：清文堂出版，1999。
中央館・教官著書コーナー：002/D,61
- ◆金原理教授（文学部）
詩歌の表現：平安朝韻文攷 / 金原理著。-- 福岡：九州大学出版会，2000.1。
中央館・教官著書コーナー：911.132/Ki,46
- ◆高橋隆雄教授（文学部）
遺伝子の時代の倫理 / 高橋隆雄編。-- 福岡：九州大学出版会，1999.11。
--（熊本大学生命倫理研究会論集；1）。
中央館・教官著書コーナー：467/I,19
- ◆朴美子講師（文学部）
韓国高麗時代における「陶淵明」観 / 朴美子著。-- 東京：白帝社，2000.2。
中央館・教官著書コーナー：921.4/B,15
- ◆中本環教授（教育学部）
出あい ころ 教室：正編 / 熊本大学教育学部国語科中本研究室中本環[編]。-- 熊本：熊本大学教育学部国語科中本研究室中本環，2000.1。
中央館・教官著書コーナー：375.82/D,51/ (1)
出あい ころ 教室：続編 / 熊本大学教育学部国語科中本研究室中本環[編]。-- 熊本：熊本大学教育学部国語科中本研究室中本環，2000.1。
中央館・教官著書コーナー：375.82/D,51/ (2)
- ◆小林一郎教授（工学部）
風景の中の橋：フランス石橋紀行 / 小林一郎著。-- 熊本：棋書房，1998.5。
中央館・教官著書コーナー：515.55/Ko,12
- ◆鹿子木敏範名誉教授
癒しと時代のころ。-- 熊本：医療法人桜が丘病院，1999.10。--（鹿子木敏範著作集落葉集 / 鹿子木敏範著；中尾康幸，石坂美代子編集）。
中央館・教官著書コーナー：081.6/Ka,58/ (1)
鹿子木敏範著作集落葉集 / 鹿子木敏範著；中尾康幸，石坂美代子編集。
-- 熊本：医療法人桜が丘病院，1999.10。
中央館・教官著書コーナー：081.6/Ka,58/ (2)
- ◆金子正信名誉教授
忘却：詩集 / 金子正信著。-- 東京：日本図書刊行会。
中央館・教官著書コーナー：911.56/Ka,53
- ◆徳臣晴比古名誉教授
水俣病日記：水俣病の謎解きに携わった研究者の記録から / 徳臣晴比古著。-- 熊本：[徳臣晴比古]，1999.5。
中央館・教官著書コーナー：493.152/To,42

最近の図書館の動き（平成12年1月～3月）

照明工事

2月28日から3月9日まで照明工事を行いました。工事により、環境改善をはかったのは、1階 [玄関ロビー吹き抜け・CD-ROMコーナー・第1閲覧室] と2階 [回廊] 部分です。

書庫閉鎖

大学教育研究センターの改修に伴い、大量に発生した研究室図書の図書館への返却に対処するため、書庫を閉鎖して書架の増設工事を行いました。現在書庫は工事が終了し開放していますが、利用できない資料（外国図書・大学紀要の一部）があります。まことにやむを得ない事情で、利用者のみならずには、たいへんご迷惑をおかけしますが、ご理解・ご協力をお願いいたします。

参考図書コーナー

中央館では、1階第1閲覧室左側に位置する、参考図書コーナーの様態替えを行いました。それに伴い、参考図書だけでなく、一般図書の配置も少し変わりましたが、どちらの図書も請求記号（分類番号）順に配架していますので、どうぞご利用ください。不明な点は、カウンターにてお聞きください。

『天草・島原の乱』出品目録

図書館ホームページで、平成11年度特殊資料展『天草・島原の乱』出品目録（解説付き）を公開しています。

<http://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/digital/digital.html>

人事異動

■異動（平成12年4月1日付け）

情報管理課長

森松陸雄（長崎大学附属図書館情報サービス課長）

情報管理課総務係長

西勇雄（経理部経理課専門職員）

情報管理課総務係主任

佐藤公則（経理部契約室契約第二係主任）

九州大学附属図書館情報管理課長

高塩勝也（情報管理課長）

九州大学経理部契約課第4契約掛長

水城喜三郎（情報管理課総務係長）

附属病院管理課経営企画係主任

五島哲哉（情報管理課総務係主任）

■採用（平成12年4月1日付け）

情報サービス課薬学情報サービス係事務補佐員

土肥真由美

■退職（平成12年3月31日付け）

情報サービス課薬学情報サービス係事務補佐員

矢野亜希子

委員会報告（平成12年1月～3月）

附属図書館運営委員会

■平成11年度第5回（3月9日）

[協議事項]

- (1) 平成13年度概算要求
- (2) 平成11年度事業計画の進捗状況
- (3) 平成12年度事業計画（案）
- (4) 中央館の開館時間拡大
- (5) 附属図書館管理運営体制（案）
- (6) その他：大型コレクション等の要求

[報告事項]

- (1) 第4回電子図書館化専門委員会報告
- (2) 自己評価委員会、運営・管理専門委員会委員の推薦
- (3) 大学教育研究センター等改修にかかる状況
- (4) 次期図書館運営委員会委員の推薦
- (5) 利用細則の改正
- (6) 研究用図書購入順位の変更
- (7) 教育研究共用施設将来計画委員会（仮称）

附属図書館専門委員会

■平成11年度第3回選書専門委員会（3月9日）

[協議事項]

- (1) 学生用雑誌の見直し
- (2) 基本図書

■平成11年度第4回電子図書館化専門委員会（2月24日）

[協議事項]

- (1) 電子化関連事業の進捗状況
- (2) 電子ジャーナル整備方針
- (3) 電子図書館化基盤整備事業の要求仕様（案）

医学部分館図書委員会

■平成11年度第4回（1月27日）

[協議事項]

- (1) 平成12年度の国内雑誌（医学部分館備付分）
- (2) 医学中央雑誌
- (3) 雑誌置き場（3F,4F）の電気工事
- (4) 24時間入退館システムの運用
- (5) 欠号雑誌の補充

薬学部分館図書委員会

■平成11年度第4回（3月22日）

[協議事項]

- (1) 平成12年度自然科学系図書資料の推薦
- (2) 平成11年度薬学部分館事業報告
- (3) 医薬品データベース

日誌（平成12年1月～3月）

1/13	第3回熊本県書誌総合目録ネットワーク調査委員会（県立図書館）	3/2・3・7	大学教育研究センター研究室図書の返却
1/20	国立大学附属図書館事務部長会議（群馬大学）	3/6～7	目録システム地域講習会連絡担当者会議（学術情報センター）
1/25	熊本県図書館協議会平成11年度講演会及びセミナー（県立大学）	3/9	第5回附属図書館運営委員会
1/26	平成11年度熊本大学学術講演会	3/9	第3回選書専門委員会
1/27	第4回医学部分館図書委員会	3/9～4/30	地下書庫一時閉鎖／集密移動書架設置工事（中央館）
2/23	第4回熊本県書誌総合目録ネットワーク調査委員会（県立図書館）	3/16	第5回熊本県書誌総合目録ネットワーク調査委員会（県立図書館）
2/24	第4回電子図書館化専門委員会	3/22	第4回薬学部分館図書委員会

「大学改革と情報基盤」をテーマに学術講演会を開催

文部省太田学術情報課長・九州大学有川図書館長

平成12年1月26日（水）、附属図書館と総合情報処理センターの共催により「大学改革と情報基盤－多面的アフィニティ情報連結を目指して－」をテーマとした標記の講演会が開催されました。

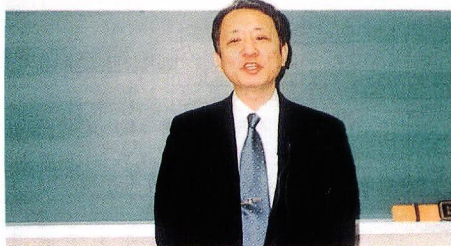
情報化社会の中で大きな変革期を迎えている大学において、親和性のある情報基盤の確立はもっとも重要な課題のひとつとなっていますが、今回の講演会はこのテーマに相応しい講師2名を招いて実施されました。

文部省学術国際局の太田慎一学術情報課長は「電子図書館から情報基盤センターへ」と題して講演され、学術審議会の建議や答申で提言されている電子図書館化を進める上での方策や課題

について、文部省としての考え方などが述べられました。また、国立大学独立行政法人化問題や大学図書館の今後のあり方についても示唆に富んだ話をされました。

九州大学の有川節夫図書館長は「九州大学における情報基盤センターへの期待」と題して講演され、12年度から発足予定の情報基盤センター（大型計算機センター等と図書館の一部を統合する組織）につ

平成11年度 熊本大学学



文部省 太田学術情報課長



九州大学 有川図書館長



学内外から約100名が聴講

いて、設置の必要性、予算要求などの取り組み状況が具体的に紹介されました。

講演には本学教職員の外、県内の大学、ホームページを見て来たという一般市民など100名近くの参加がありました。

編集後記：25巻2号をやっとお届けできて、ほっとしています。

2月には、書庫増設工事による閉鎖、環境整備のための照明工事などがあり、皆様に、大変ご迷惑をおかけしました。（書庫は、現在開放していますが、今も利用できない資料があります。もうしばらくお待ちください。）また、3月といえば、大学では別れの季節。卒業生の方々は、図書館から貸出中の図書を忘れずに返却していただきますよう、お願いいたします。（もちろん、卒業生以外の方も…）

4月は、昨年も大変好評でした新入生対象ガイダンスを実施します。今年はまだ新たに、非公開の貴重書庫も、館内案内に取り入れます。新入生だけでなく、興味をお持ちの方は、是非参加してください。お待ちしております。

熊本大学附属図書館報「東光原」（とうこうげん）*
25巻2号 平成12年（2000年）4月発行

発行所 熊本大学附属図書館
〒860-8555 熊本市黒髪2-40-1
TEL: 096 (342) 2273 FAX 096 (345) 9087
http://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/tokogen/
編集 浜崎修一、梅尾勝征、甲斐重武、
永村典子、川内野祐子、浜崎千雅

※ 現在の中央館の敷地一帯が、旧制第五高等学校時代東光原と称する運動場であったことに由来する。